



## 浦戸食堂 まりこさんのカレーとその記憶

日時：2014年12月20日(土) 14:00～15:30

会場：宮城県漁業協同組合塩竈浦戸東部支部（寒風沢島）

マリゲート塩釜 12:30 集合 / 寒風沢島 16:38 帰船乗船・解散

参加無料（要申し込み）・交通費実費 / 定員：20名（先着順） / 企画：増田拓史（アーティスト）

お申込み：つながる湾プロジェクト運営委員会 | TEL: 080-3198-4818（ビルド・フルーガス）

宮城県塩釜市は浦戸諸島。1970年代、漁業資源が豊富奪島地区から成るこの諸島には大勢の人々が暮らしていた。寒風沢島で生まれ育った長南まりこさんもその一人。家業は島で唯一の用品店を営んでいた。

まりこさんが成人を迎えた頃、島を活気づけようと、用品店の一部を利用して喫茶店を開業。島民に留まらず、釣りや海水浴客、そして、対岸の本土からも船外機に乗って来客があるほど親しまれていた。この時から提供していたメニューのひとつがカレーライス。とあるホテルの料理長から教わったという。秘伝の特製カレーライスだ。仕込みに数日かかる。それでも今まで島になかったものを出したかったとまりこさんは言う。数年後に、島民から惜しまれながらも、ご結婚を機に閉店。

それから数10年後、島に戻ることになったまりこさんは、炬端を囲むようにゆったりして欲しいと名付けた「ゆとりろ」という喫茶店を再び開店。用品店1階部分を改装した。島の漁師たちに再び親しまれたほか、島の学校の先生たちも多く訪れた。

そして、2011年。すべては、まりこさんを知る人の記憶のなかの物となった。

本作では、長南まりこさんのカレーを知る人たちのインタビューをもとに、「まりこさん」「ゆとりろ」。「まりこさんのカレー」の記憶を辿ります。